



学校だより

令和6年度1月号
令和7年1月7日
校長 小澤 秋仁

<http://www.kiyose.ed.jp/kiyosetyuugakkou/index.html>

明けまして

校長 小澤 秋仁

明けましておめでとうございます

本年も保護者の皆様、地域の皆様にご協力賜りまして、生徒の成長のために教職員一同、教育活動に邁進する所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

年末、年始に陸上競技に関する内容がニュースを賑わせました。

12月19日、日本陸上競技連盟の年間表彰セレモニー「アスレティックス・アワード2024」にて、やり投げの北口榛花選手がアスリート・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。パリ五輪での活躍は記憶に新しいところ。オリンピック競技大会女子やり投げ、フィールド種目の日本女子選手として初の金メダルを獲得しました。

北口選手は、小学生時代には、バドミントンの全国大会団体戦で優勝。中学時代には、水泳で全国大会に出場。旭川東高に進学すると、当時の陸上部顧問・松橋先生からやり投げへの誘いを受けます。先生曰く「恵まれた体格に肩回りの柔軟さ。加えて天真爛漫な性格。心技体すべて、世界に通用すると思わせる素材だった」。その2カ月後に北海道大会で優勝します。あらゆる競技において結果を残す天性の運動センスを備えているのですから、金メダルの獲得は当然であるところ。ところが、受賞後のインタビューにて「苦しくて、できればこの1年は2度と来なくていいと思うくらい1年」と答えたのです。2019年にやり投げの本場であるフィンランドの講習会で出会ったチェコ人のコーチに師事。チェコにて単身修業し、今年一年、自身を追い込み続けました。誰よりも練習してきた故のメダルなのです。「海外に飛び出て修行」優勝する選手は他とは異なる発想をします。

1月2日・3日に行われた箱根駅伝。青山学院大は、2年連続8回目の総合優勝を果たしました。2004年の原監督就任当初は、箱根駅伝に出場することができない弱小チームでした。時間や約束を守らないチームの生活から見直し、規則正しい生活の重要性を根気強く浸透させ、常勝チームを作り上げる基礎を築いたのです。その後のチームについては、著書『フソーの会社員だった僕が、青山学院大学を箱根駅伝優勝に導いた47の言葉』で紹介されているのでここでは割愛しますが、常々「陸上は暗い。というか、スティックな姿勢が好まれるが、明るさが必要。」と言っていました。確かに、生徒への言葉かけは明るいし、TV番組にも積極的に出演します。特番では各駅停車のローカル線と競争する企画に出演するなど、他大学にはない“明るい”チームカラーです。雑誌の取材において「本人がやりきった結果であれば、負けたとしても、続きがあるはず。“明るく”元気に努力して、なんとかかなるさと楽観的に構える。そうすれば、行き詰まることもなく、組織も個人も伸び続けていけるはずです。」大学スポーツの指導にはあまり聞くことのない“明るさ”に言及してきました。優勝させる監督は他とは異なる発想をします。

天真爛漫と評された北口選手も常にあふれる笑顔であることはご存知のとおりです。「チェコのコーチなのに、なぜ日本人を教えるのだ」というコメントがチェコの国内にある中、北口選手のことを応援するチェコの方々はそれ以上いるというのです。それは、チェコの選手にはない北口選手のいつも笑顔で明るい人柄がそうさせるようです。

笑顔や明るさは、自身の乗り越える力、そして、人に支えてもらう力を生み出します。そう言いながら、眉間にしわを寄せパソコンのキーボードを叩く自分を戒めています。

2025年1月 清瀬中は“明るく”明けていきます。

生徒の活躍

《バドミントン》

東京都新人大会 男子シングルス ベスト8 1年生

《バスケットボール》

第11ブロック新人大会 準優勝

《新体操》

都選手権大会 フープ 2位 2年生

《税の標語》

市長賞 3年生

教育長賞 3年生

《税の作文》

多摩武蔵納連会長賞 3年生

青色申告会長賞 3年生

元が〜まるちよば ケッチさん来校

“笑顔と学びのプロジェクト”の一環で、11月26日に、世界39ヶ国に笑いを届けてきているケッチさんのパントマイムショーを本校で開催しました。

1部は、パントマイムショー。2部は講演「夢はかなう」。3部はパントマイム教室と盛りだくさんの内容でした。パントマイムショーではほとんどしゃべらずに生徒たちを



笑いの渦に、間髪入れずに手品からジャグリングと変化。2部では「好きなことを見つけること、そして、やり続けることが、夢へ近づくことになる」とお話しいただきました。3部では、生徒や教員も舞台上がってパントマイムの披露。言語を使わなくて動作や場所を充てるゲームでは、生徒たちの拍手によって、回答者が正解へと導かれていきました。



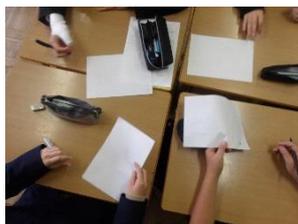
ケッチさん曰く「言葉を使わなくても、気持ちを伝えることができる。海外に興味があるなら、躊躇せずに行ってみよう。非言語で気持ちを伝えられるのだから。」



チャレンジするフィールドが広がりました。 写真使用許諾 <https://mgplanning2022.com>

生徒会主催 グループエンカウンター

11月27日、生徒会企画「かぶっちゃーよ」を朝学活の時間に行いました。「オリンピックの種目」等の出題に対し、回答を各自で紙に記入。「せ〜の」で見せ合い、グループ内で被っていないければ、ポイント付与というルールです。自然に会話が弾み、作戦を語り始め、距離が縮まっていきました。12月11日には第2弾「かぶんなきゃーよ」で盛り上がりました。



1月8日 命の教育開催

『復興を目指して』

令和7年1月8日(水)13:35~14:25に、清瀬市青少年問題協議会第一地区委員会の皆様と共催で石川県志賀町立富来(とき)中学校の教頭、芳野 了俊 先生を講師にお招きして、

『命の教育 ~復興を目指して~』

の講演会を開催します。

保護者の方々、地域の方々、お時間が許せば、ご来校ください

八丈島 大賀郷中学校と生徒会交流

12月9日 東京港から船で10時間30分の距離にある、八丈島の八丈町立大賀郷中学校の生徒会と清瀬中生徒会はオンラインでつながりました。

お互いの学校の様子と生徒会の活動を紹介しました。特に大賀郷中学校は各学年1クラスずつ、全校で51名という人数に清瀬中生徒会のメンバーは、大変驚いていました。



大根収穫

冬至を前に、技術科で2年生が栽培している大根の収穫を行いました。昨年度の大根よりも大きく軒並み2kgを超える作品です。



チューリップの球根植え付けボランティア

12月23日にPTAのご協力の下、生徒会主催でチューリップの球根の植え付けをしました。春先が楽しみです。



保護者の皆様へご協力をお願い

先日、公園の使用方法について、市民より市役所へ一報が入りました。校外での活動ですので、教員からの指導と共に、ご家庭での協力が必要です。駐輪方法、ゴミは持ち帰る、夜間の声量など、近隣住民を考え利用するよう、今一度お声かけをお願いいたします。